

学校教育における福祉教育のあり方を探る

I 研究の内容

- 1 各校の福祉教育の実践報告を行い、学び合う。
- 2 福祉教育のあり方を探りながら、研究授業に向けて部会員全員で授業づくりを行う。
- 3 福祉に関わる施設見学、学習会を通して、福祉について理解を深める。

II 実践・研究授業

1 各校の実践報告

各校の福祉教育の実践報告を行い、そこから統一授業研の授業づくりに向けて方向性を話し合った。

2 施設見学を通しての学習会

「福祉教育に関わる学習会」 講師 山梨市社会福祉協議会 平山純子さん

①山梨市社会福祉協議会の事業及び山梨市の概況について

②点字の組み立てについて

③点字の文の書き方について

④名刺を作ろう

3 研究授業

(1) 総合的な学習の時間「みんないっしょに生きている」(第4学年)

三富小学校 藤波 貴教諭

ゲストティーチャー 石原テルさん(甲州市在住) 盲導犬

ア. ねらい

○目の不自由な人の生活の様子や盲導犬のことを知る。

イ. 本時の学習

①アイマスク体験を振り返り、感じたことを確認する。

②目の不自由な方のお話を聞き、生活や盲導犬のことを知る。

③ゲストティーチャー(手話ボランティア)のお話を聞く

④授業を振り返り、自分なりに考えたことや学習の感想をワークシートに書き、発表し合う。

◇体の不自由な人の生活の様子、生活しやすくするための道具や施設・設備などを調べたり体験したりすることから共に生きるために、自分にできることをやってみようとするボランティアの意識を持たせることをねらった。子どもたちが課題を持ち解決するために調べたり体験したり話し合ったりする活動を通して「みんないっしょに生きている」という主題にせまることができた。

(2) 道徳 主題名「本当のヒーローってなあに」資料名「アンパンマンの雑記帳」

(第1学年) 日下部小学校 丸山香織教諭

ア. ねらい

○自分を支えてくれている人たちがいることに気づき、感謝の気持ちを持つと共に、自分も人のためにできることを実践していこうとする心情を育てる。

イ. 本時の学習

- ①ヒーローと考えているものを出し合う。
 - ②アンパンマンについて知っていることを出し合う。
 - ③他のヒーローと比較し、アンパンマンもヒーローであることを話す。
 - ④めあてを持つ。「ほんとうのヒーローってなあに」
 - ⑤自分は力がなくなってしまうのに、みんなに顔を食べさせてあげるのはなぜかを考える。
 - ⑥「アンパンマンのマーチ」の歌詞の中から気持ちが分かるところを探す。
 - ⑦自分のために働いたり自分を手助けしたりしてくれている人にはどんな人がいるかを考える。
 - ⑧アンパンマンになってどんなことをしてあげたいかを考える。
- ◇児童に取って身近なキャラクターを通してヒーローの存在をあらためて考えることになった。本資料を通じて、相手の立場に立って自分ができることを手助けしたり、励ましたりすることのすばらしさを感じさせることができた授業であった。本学級では「アンパンマン大作戦」や「ハッピーマップづくり」など継続する指導に取り組んでいる。

III 成果と課題

1 成果

- ・福祉教育において「ともに生きる」という考えのもと、研究が進められた。
- ・授業研究が2回行えたことで、授業案づくり、授業とその後の研究会において、研究を深めたり広めたりすることができた。
- ・二つの研究授業とも、授業を通して子どもたちの福祉に関する道徳的価値や実践力を高めることができた。
- ・夏季学習会で、社会福祉協議会の方の話を聞いたり、点字体験をしたりと大変勉強になった。今後も福祉施設の方の話を聞く等、外部の人から学ぶことも大切である。
- ・部会員の中で「ちょボラ」を実践してきたことで、児童同士の気づきが増えてきている。これからも継続していきたい実践である。

2 課題

- ・いろいろな授業実践や日々の実践から年々研究が深められてきていると感じているものの、所属員が小学校だけでなく、中学校の先生方にも入ってもらえると、さらに幅広い発達段階での研究ができると思う。
- ・福祉教育部会の研究成果について、他部会の先生方に伝える機会があるとよいと思う。
- ・どのような考えでどのように福祉教育が行われているのかを、県教研や全国教研のレポートから学びたい。幅広く実践を学びたいと思う。

(部長 新谷 雅美)